



奇談

古今

美女子伝

二下

遠 15 95
2067
3



門 13
號 2067
卷 3

兼秋云云
同

兼秋云云うらそれがしも櫻よりゆきと老人よかりて市は
考りそり抄を系なりし路よふれど果して新血あり兼秋衣冠と
叙出して着し花と供ども懐前より海とふし我身後ゆるきと
飛後よも羽とそむ座し吾心片と察せよと声とぬて再び
いふは兼秋乃百姓山嶺もええぬ夜冠の人横尾が血ふ糸痛
せしと種てを道集りて是とるる兼秋体之き依酒もふれど
新字より琴と把りて兼秋より望して膝より血涙とこもよ源
これでは百姓も現る類の煙觸あつてきて無遠ありのときと説て
ちよ知らぬなりぬ兼秋源とあより種く何とやあひやと回へる
兼云云都の人音律とあはれ琴と見く樂しとの具ありと思ふが
あり兼樂乃法書と定て耳よりくは興あさよのと思ひてあ
ひあつるあり兼秋云今の世さ人がはしく海の琴の秘曲へ程さ

兼秋云云



馬車風ふらん松山より花も無ありとあふりわびぶしび曲長
るもあふり今浮せしはまねぐしあふりうりてよふあふり
一曲六曲このよは浮く大内家の筆の組もあふり長閑を
賦あふりて

いねとむしりりて人もあふりあふりあふりあふり
新らつらうりあふりあふり

たよりもあふりあふりあふりあふりあふりあふり
とぞあふりあふりあふり

気時法とあふりあふりあふりあふりあふりあふり
つらつらあふりあふりあふりあふりあふりあふり

るあふりあふりあふりあふりあふりあふりあふり
あふりあふりあふりあふりあふりあふりあふり

あふりあふりあふりあふりあふりあふりあふり
あふりあふりあふりあふりあふりあふりあふり

あふりあふりあふりあふりあふりあふりあふり
あふりあふりあふりあふりあふりあふりあふり

あふりあふりあふりあふりあふりあふりあふり
あふりあふりあふりあふりあふりあふりあふり

あふりあふりあふりあふりあふりあふりあふり
あふりあふりあふりあふりあふりあふりあふり

あふりあふりあふりあふりあふりあふりあふり
あふりあふりあふりあふりあふりあふりあふり

あふりあふりあふりあふりあふりあふりあふり
あふりあふりあふりあふりあふりあふりあふり

なき事ありと尋り辞して去まむ初り入りやうりしが彼をうつけし
目を遠く見果して其華起りしをこれとて漢文なりと申す
やうり老人まぬよはく時法りうりてて終りと遠り系紋も我も
と百姓とありしと保入道しと世と入りたりや國を南朝心腹の玉
む乃の通海自らしと折るを去るの望も入りけることあり

四 道と傳ふる 楮

父子兄弟ハ一本の連枝あれむおありて先と絶とも父子兄弟とつ名を
折れれば枝と折指と斬りてても是も一本の枝ありときりつるは
わらひ親と切らる親り恥辱あれば子も是を恥しと無せし子られ
しもの味又苦後ハ親の面傍あり支母の言ハ是りうり天合ありん
義命をえ他人と他人うりうりは物ありとあはれりしその
義理と信とのけてはれもそのお義して合又お義して離るまあり
誰と時を他人うりも味し候り云

支妻本是回林鳥

巴到天明各自能

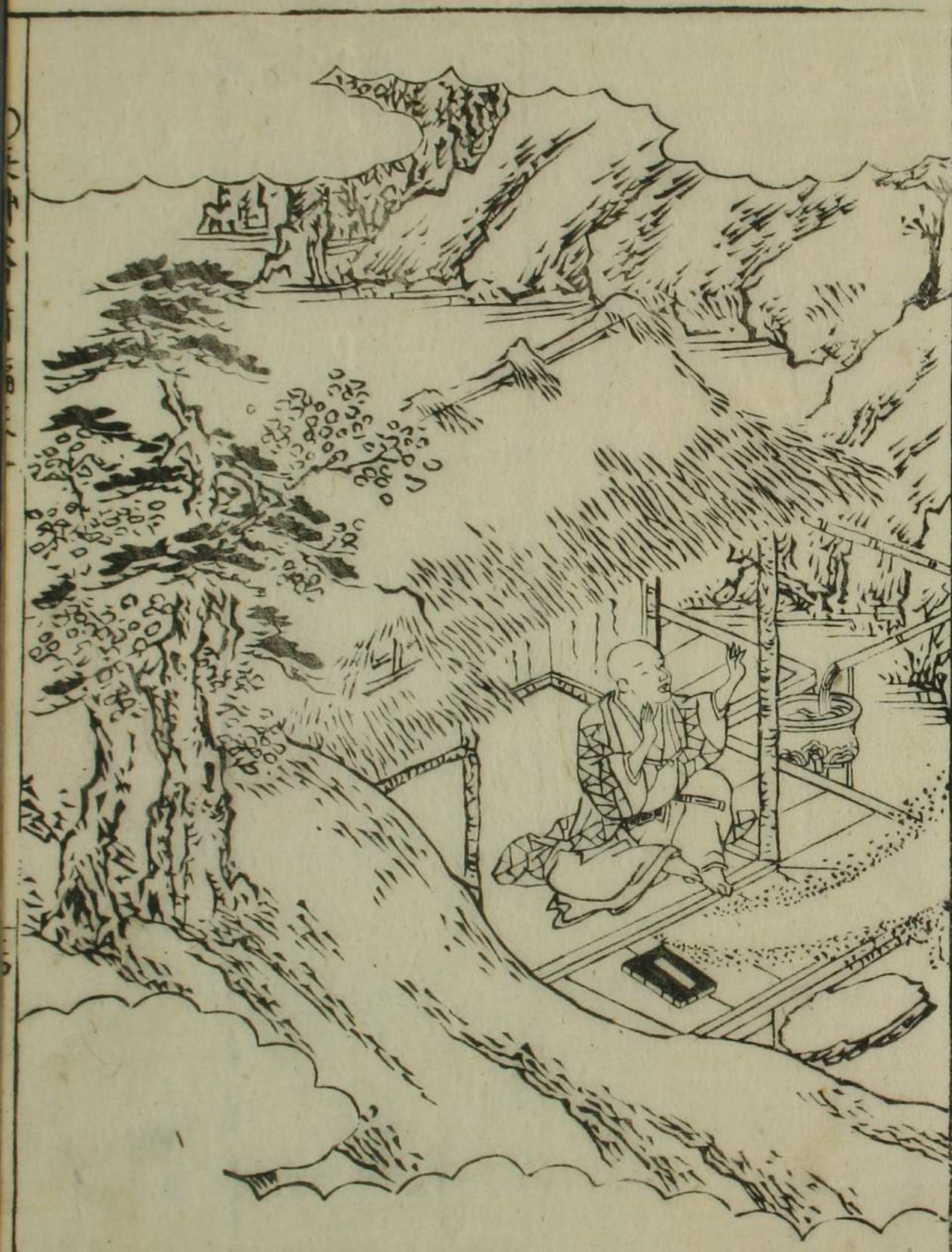
是とわづげく支時を

おつとまへ回し林鳥居らうり候れはおのげさぬくは辭

支妻本是回林鳥も親よせむをありぬそのわくこふかハ支妻見んを
負教ありて支り候きそハ親書とも亡者の業とつて之をうれた
たれと思ひて支も一入候べき事しるんがハ其後の業を知んぬを
或は親の志は遠く又ハ子の不役うりりぬくかのかりお支り思
おもあり又天性の深ゆあり支支りなりても偷漢の悪うり其や
か何れとせられども支ハ國中の愛り漏れ枕との言よ遠くそこと
らん時り言りうりて支者とも不忠ととあるとの言の人の心あり

佛より河にわくをいしてらうハダの節とあり能生の時ううあのお
 あましくうをいすわの院とてううを捨つてらるる事とのしてりあやう
 死して後異人の見ゆらうも二年とてううをうへはけよう一実定の概
 と家の名を極て死着るむ何方へと極とてと異く言のううと
 女月餘りひあう世とさりぬ自思やう概陰地を極ていつう
 死とらる事あし親父をうの甲けり海極のうとせまりのあは
 所かたぬく概の通り世とせし事と形ありとらるる極をううと
 念そ想やう世とのぬ人多くはかぬとて極りあうかそと死られぬと
 う遠らうのうあし波むつまうくあられてう人あかりとて反問のあ
 ういふあかあもあをうといふも婦人のうく性ありしてハ亡ま
 のま命あうくハちりうかかして亡まの相むひとて思ひつてもあは
 海ううきあうと青院傍家よ極て二年ううある追悼と朝う

うんりて概ひひとれとくざりとてらるる極とて一極のううとて
 けいあうお半ぞうと教くはゆつて女たよ極ひ見りうう
 易き事やあると概の事と極とて極をうう一礼してまゆり極
 うもいせの性あうと無とめて極極の極と携へて半の
 概完りうり極たしとも極極とてやう極女房極極極
 たりてらとがうゆらうありてかき世極極とてらるる極ハ人
 うやう同ハ極を極極人の事とらりせせい極極とてありとて
 女房極と極極極とてせの事と極極極とてあうか極人の極ト
 あとま極極とてあう極とて極極とて極極とて極極とて
 極極とて極極とて極極とて極極とて極極とて極極とて
 女房とて極極とて極極とて極極とて極極とて極極とて極極とて
 ありうあ極極とて極極とて極極とて極極とて極極とて極極とて



奥州前編卷三

三

